

迷惑施設の時空間的变化に関する研究 *

A Study on the Change of NIMBY Facilities by Time and Space *

佐々木義明**・川本義海***

By Yoshiaki SASAKI**・Yoshimi KAWAMOTO***

1. はじめに

広域行政の進展、市町村合併による行政単位の拡大などにより、近年、さまざまな公共施設が効率化という観点から大規模化、偏在化している。また、自動車社会の進展による道路網整備の拡充、市街地の郊外化に伴い商業施設などの大規模化・郊外化も進展している。

これら施設の大規模化は、その施設が地域に与える影響が大きくなることに繋がり、また、施設の偏在化は、その施設から影響を受ける地域が限定されることが危惧される。この結果、施設の種類に係わらず地域に与える影響は正(利益)、負(不利益)ともに大きくなるが、近年では、その負(不利益)の部分が大きく取り上げられる傾向にある。このことは、住民意識の高まりとともに、大規模施設に対する「迷惑施設」という認識を増大させ、その立地に対しては各地で反対運動が起こり、必要不可欠な施設の立地が困難になっているのが現状である。これまでは「迷惑施設」というと、ゴミ処理場、廃棄物処分場、工場といった施設がその対象であったが、今や、それだけにとどまらず、大型商業施設や学校、近隣公園といったどちらかといえば「有益(公益)施設」と捉えられていた施設までがその対象となる要素を含んでいる。

そこで本研究は、大規模化が進むさまざまな施設を対象とし、その実態と大規模化が地域に与える影響について「迷惑施設」という観点から経年的な変化とともに把握する。更に、大規模施設が今後地域

*キーワード：地域計画、都市計画、産業立地、迷惑施設

**正員、工修、福井大学大学院工学研究科

(福井県福井市文京3-9-1、TEL&FAX 0776-27-8763)

***正員、博(工)、福井大学大学院工学研究科

(福井県福井市文京3-9-1、TEL&FAX 0776-27-8763)

においてどのような関係を構築していくべきか、ということについて提案するための基本的な考え方について提示することを目的とする。

2. 対象施設について

本研究では、大規模施設・迷惑施設として表-1に示す施設を対象とする。また、これらの施設が迷惑施設として捉えられる要因についてもあわせて示す。

これを見ると、施設が「迷惑」と認識される要因は大きく分けて4つに分類できると考えられる。騒音・振動・悪臭・環境汚染といった直接影響(不利益)を被るもの、事故による危険性といった直接的なもの、そして大きな影響を受けるが、その可能性が一般的に非常に低い場合のもの、イメージといった感覚的な部分により影響を受けるの、更に、交通渋滞といった施設そのものではなく、その施設があることにより誘発される事象により影響を受けるものである。

3. 施設が与える影響の変化について

ある施設を迷惑と感じるかどうかは、「その施設からどれ程の利益を受けているか」と「負担は公平になされているか」という両者のバランスにより変化するため、同じ施設に対しても住んでいる場所、すなわち施設からの距離により異なる。また、同じ場所(距離)であっても、時間と共にその受け止め方に変化が起こることが十分考えられる。

以上より、施設による迷惑の程度は時間と距離によって以下のように変化することが考えられる。

表 - 1 迷惑施設とその要因

施設区分	要因区分 施設	直接的			間接的			
		短期・恒常型	中長期型	突発型	感覚型	派生型		
	要因	騒音	振動	悪臭	環境汚染	事故による危険性	イメージ	交通渋滞
供給・処理施設	ゴミ処理場							
	産業廃棄物処分場							
	下水処理場							
	原子力発電所							
交通施設	道路							
	空港							
商業施設	ショッピングセンター							
その他	工場							
	石油コンビナート							
	火葬場							
	刑務所							
	娯楽施設							

(1) 時間による変化

- a) 時間の経過とともに迷惑の程度が減少する
設置当初は迷惑と感じられていたが、その施設から得られる利益が大きくなり「利益 > 迷惑」となる。
- b) 時間の経過とともに迷惑の程度が増加する
施設そのものや、施設による周辺環境への負の影響が大きくなり「迷惑 > 利益」となる。
これらをまとめると図 - 1 のようになる。

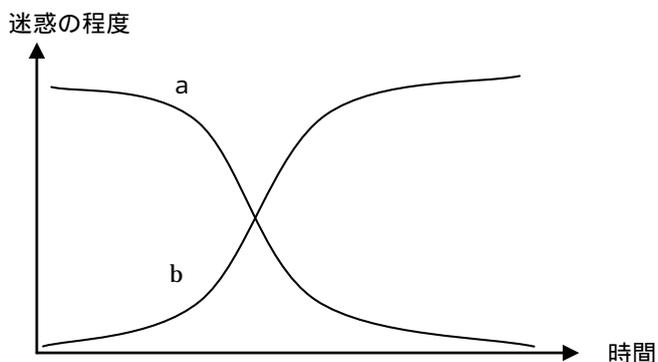


図 - 1 迷惑の程度と時間の関係

(2) 距離による変化

- a) 距離による迷惑の程度の変化が少ない
施設が与える影響が非常に大きい場合は、距離による影響を殆ど受けない。
- b) 距離とともに迷惑の程度が減少する
施設が与える影響が一定範囲に限られる。
- c) ある距離において迷惑の程度が増加する
施設の直近においては得られる利益が非常に大きい、ある距離において、不利益が上回る。
これらをまとめると図 - 2 のようになる。

迷惑の程度

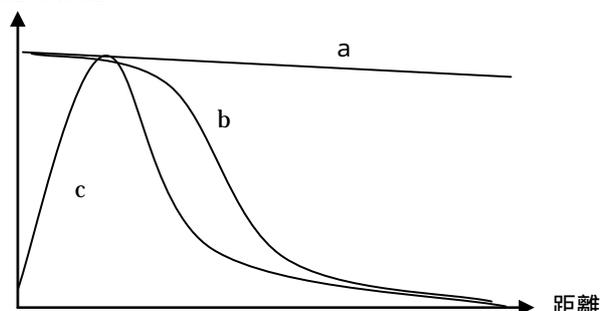


図 - 2 迷惑の程度と距離の関係

4 . おわりに

本研究では、大規模施設が地域に与える影響について「迷惑施設」という観点からその要因を把握し、時空間による迷惑の程度の変化について、その考え方を提示した。

今後は、具体的な施設を対象とし、それぞれの要因についての調査を実施し、今回提示した迷惑施設と時空間の関係について、また、同じ施設である場合、その規模の変化が迷惑の程度にどのような影響を与えているかということについて検証する。さらに、近年増加している迷惑施設に併設される施設などがどのような影響(効果)を与えることができるのかということについても明らかにする。そして、これらに基づき、地域における今後の迷惑施設のあり方について検討・提案を実施する予定である。